

富山市教育委員会会議録

令和5年1月定例会

1 日 時 令和5年1月27日（金曜日）

午後 4時00分 開会

午後 4時40分 閉会

2 場 所 Toyama Sakura ビル5階 中会議室

3 出席委員 教育長 宮口克志
委員 若林啓介
委員 尾畑納子
委員 高田 健

4 説明のために出席した者

事務局長	砂 田 友 和
事務局次長（総務・社会教育担当）	古 西 達 也
事務局次長（学校教育担当）	竹 脇 孝 志
教育総務課長	本 郷 由 佳
学校再編推進課長	山 口 雅 之
学校施設課長	高 瀬 雅 基
学校教育課長	川 端 紀代美
学校保健課長	宮 前 仁
生涯学習課長	高 橋 祐 子
教育センター所長	河 原 弘 幸
ガラス美術館次長	水 原 秀 樹

5 職務のため会議に出席した事務局職員

教育総務課長代理	余 川 毅
教育総務課管理係長	河 西 麻里子

6 傍聴人数 0人

7 付議案件

(1) 報告事項

報告事項 1 「令和4年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

(2) その他

その他 1 ガラスの街とやま連携展「Toyama Glass × (パイ) …」

その他 2 富山市ガラス美術館企画展「アナザーワールド:不思議でリアルな世界」

8 会議の要旨

【開会】

[教育長] 開会を宣言する。
本日は、藤井委員が欠席であるが、委員の過半数が出席しているため、会議は成立している。

【前回会議録について】

[教育長] 12月教育委員会定例会会議録について意見等を求める。
[各委員] (意見なし)
[教育長] 意見なしのため、前回会議録は承認された。

【報告事項1】

[教育長] 報告事項1について事務局から説明を求める。
[学校教育課長] (報告事項1について説明)
[教育長] ただ今の件について、質問等あるか。
[尾畑委員] 入学時の中1学力調査の結果と比較して、あまり伸びていないのではないかと懸念がある。結果は平均点で記載されているが、教科ごとに分布が異なっていることや、年度によって問題の難易度が異なることもあり、分析が難しい点もある。
図表を読み解く力や、表現力に課題があるのではないかと説明があったが、データの分析力が問われる時代になってきているので、これ

から強化してってもらいたい。

正答率が低かった問題について、出題者にとっては非常に関心が高く、良い問題であると考えて作問したと思われるが、今の中学生は現代社会に対する関心が低く、そのために読解力が発揮できなかったのではないか。読解力を付けることも大切だが、その前に、生徒が日常生活に関心を持つような取り組みも必要だと思う。例えば、理科の天気図の問題について、教科書に書いてあることをただ教えているのみでは、このような出題には答えられないと思う。

決まっていることを理解したり、覚えたりすることは、ある程度できていると思うが、社会で起きている事象と授業で学習したことが融合しない、有機的に結び付きができていないのではないかという問題点が見える。

最近の生徒は質問しない、大人しいと言われるが、社会生活に関心がないことも今回の結果に影響したと思う。何が問題なのかをしっかりと分析し、教員も今回の学力調査の結果を反省材料として使い、データ分析力が身に付く授業ができるよう訓練することが必要かと思う。

[学校教育課長]

例年、出題者は、様々な事象を組み合わせ読み解くことを目指す問題や、身近な生活体験の中から学習している事項を結びつけて解答する問題を工夫して作成している。

誤回答があった生徒に対して、どのような躓きがあったのか、どこまで思考を巡らせて回答したのか、学力調査後の指導を丁寧にしていかなければならないと感じている。教育委員会内では、日々の授業の中で、問題や課題を出した後に、それぞれの生徒がどのような気付きや疑問を持ったのか語る場面が取れていないのではないかという話も出た。

一方通行で何でも教えようとする従来の学びから転換し、「この問題は どうやって解くのだろう」「これはどういうことなのだろう」など生徒に理解したいという気持ちがある段階で、例えば友達に聞く、端末上での調べに繋げていく、などどのように次に繋げていくのか、学びを置いていかない手法について、考えていかなければならないと考えている。

[教育センター所長]

教育センターでも、問題解決型の学習の充実に向けた授業改善などについて、研修の中で極力取り入れるようにしている。日常生活や学習の中で疑問に思ったことについて、粘り強く取り組む学習が、このような思考力を問われる問題では重要になってくると思うので、これまで以上に対応していきたいと考えている。

[尾畑委員]

日常生活の中で、ゲームなどを行っているばかりでは駄目だということも結果として表れてきたのではないかと思う。

今回、最高得点に近い分布が少ないと感じたが、問題が難しかったのか。

[学校教育課長] 今年度の問題が難しかったということは、調査結果から感じている。出題者に結果を見ての感想を聞いたところ、高校入試問題も年々難しくなっているという話があった。特に、今回、平均点が低かった国語や数学は、入試問題を意識しながら作問したということを知っている。実際に私も解いてみて、入試問題の難しさを実感した。そのような観点からも、今後の作問にどのように活かしていけばよいか、検討しなければならないと考えている。

[尾畑委員] 新型コロナウイルス感染症の影響はあるか。

[学校教育課長] 新型コロナウイルス感染症のため学力調査を受けられなかった生徒は、昨年度は少なかったが、今年度は100人程度いたと把握している。

[若林委員] どのようにしていけばよいのか、難しい問題だと思うし、これといった決定打はないと思う。今、情報を入手する手段が非常に変化してきている。それが果たして良い方向にいつているのかどうか、脳科学者の意見などもあり、今後、ある程度は解明されていくと思うが、私が中学2年生の頃に当時の教員から言われた「新聞の見出しだけは必ず読みなさい」という言葉が、今でも記憶の中に非常に印象に残っている。

あの当時は、各家庭に必ず新聞が1紙はあったが、今は新聞を取っている家庭は少ない。世の中の流れを見るときに、共通のベースとなるものがもう無い。世の中で何が起きており、どのようなことが問題になっているのかということに対して、興味を持たない人は、本当に無関心なままである。無関心な人に無理やり興味を持たせようとしても、世の中にその素材がない。私はマスコミ関係者ではないが、活字媒体の見出しだけでも毎日見ることによって、世の中の流れはかなり分かる。しかし、残念ながら、今、そのような共通のものがない。そうすると、このような試験問題が自分にとって全く未知の領域だった場合、答えようがない。今でも読書会などは行っていると思うが、生徒に何か作文を書かせる、何かを読ませるなど、強制的に課題を与えるような教育も学習の中には必要ではないかと思う。出題される問題が難しくなれば、自分で考えて解答を導き出す必要があるが、考えるためには思考のベースが必要である。そのベースがないことに私は危機感を持っている。

自分の会社でも社員の採用時に必ず作文を書かせているが、作文の質が非常に低くなってきている。総合的な書く力・読む力をどのように育成していくかということは難しいが、ある程度そこには強制的なものも必要な気がする。

[尾畑委員] 繰り返しの発言になって恐縮だが、例えば化学の問題であれば、溶解度など基本的な内容があると思うが、今回の社会科のような問題の場合、様々な社会問題を知っていればある程度解答することはできたと思う

が、大半の生徒は大変だったのではないかと思う。

出題者は、確認したい力は何かということをもう少しはっきりさせてから出題しなければならないと思う。基礎的知識が必要なのか、それともデータを読み解く力が足りないのか。そうでないと、結果を見てもよく分からないということになる。

学校での授業だけでは難しく、日常生活の中で新聞を読むことも大切だと思う。今は、各家庭で新聞を読んで来るようにとは言えない時代なので、ウェブ上の記事などでもいいので、社会現象に関心を持たせるようなことを育てていくことも大切だと思う。

[高田委員]

先ほど、学校教育課長から、試験問題が難しかったという話があった。5教科で見ると、数学の平均点が15.7点で一番低い。例年も数学は正答率が低いのか。

[学校教育課長]

昨年度も数学の平均点は20点を下回っている。最後の方に少し難解な問題があり、無答率を見ると、最後の問題まで行きついていない生徒がいるように見受けられる。問題を解く経験や時間的な配分についても課題が見受けられる。ただ、無答率は改善してきており、問題を解こうという意欲は、僅かではあるが向上してきている。

[教育長]

富山市として、子どもたちに付けなければならない力は何なのか、また、それに合わせた作問の意図について、しっかりと考えていかなければならない。作問委員は、非常に熱心に指導している教員だと思うが、「この程度は解けるのではないか」と思って作問した問題が、果たして全市の的に見てどうなのかということも含めて、見直していく必要がある。新聞の活用などは、学習指導要領にも示されている。新聞社のご厚意により、各学校に複数の新聞が置かれているが、学校訪問に行くと、ただ置いてあるだけということもある。例えば、日直が記事を1つ取り上げ、タブレット端末を使用して議論するなど、新聞をどんどん活用するように学校訪問時や校長会などでは言っているが、再度、活用の大切さについて、指導していきたいと思っている。

富山市では、問題解決的な学習を大事にしたいと考えている。また、山室小学校では、分析したものをプレゼンする力を付けようと取り組んでおり、来年度も継続する予定である。地道な取り組みになると思うが、そのようなことを市全体の小・中学校に広めていくながら、新学習指導要領で謳っている授業改善に丁寧に取り組む、これからの社会を生きていく子どもたちに必要な力をしっかりと付けていくための教育が定着するよう、機会を捉えて指導していきたい。貴重な意見をいただいたと思う。

[尾畑委員]

教員の業務量も多く大変だとは思いますが、外部からの情報も取り入れなが

ら、教員自身の力も付けていってもらいたいと思う。

[教育長] 仕事なので、忙しいからできないという言い訳はできないので、厳しいことも言っていかなければならない。

【その他 1、2】

[教育長] その他 1、2 について事務局から説明を求める。

[ガラス美術館次長] (その他 1、2 について説明)

[教育長] ただ今の件について、質問等あるか。

[若林委員] 企画展の日本語のタイトルは「アナザーワールド」であるが、英語は「Other Worlds」となっている。「他の世界」と「別の世界」で、それぞれの意味が違う。意図してこの表現にしたのか。

[ガラス美術館次長] 担当学芸員に確認して、後日回答する。

[教育長] 以上をもって本日の会議は終了したが、その他、質問はあるか。

[各委員] 質問等なし。

【閉会】

[教育長] 閉会を宣言する。